

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム水色の詩 ユニット	評価実施年月日	平成20年1月14日
評価実施構成員氏名	長野 東 小椋 西出 島田 片山 高田 穴戸 中谷 小野寺		
記録者氏名	小野寺 敬子	記録年月日	平成20年1月21日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域密着型サービスとしての理念 生活の中で、利用者それぞれに出来る喜び、楽しみをみつけていただけるようなサービス提供を理念としている。冬季は、通りに除雪に出ることで近隣の住民の方と顔を合わせる機会を作ったり、夏季は近隣の高齢者宅の庭の草取りをさせていただく等、地域社会とのつながりを持つことが出来るように支援している。		
2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念の共有と日々の取り組み 理念の実践に向けて、ユニット毎にミーティングで話し合っ理解を深めており、理念に添った利用者との接し方や、声かけを実践している。また、利用者が主体となって参加し楽しんでいただけるような行事(ふき採り、餅つき、畑作りなど)を企画、実行している。		
3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	家族や地域への理念の浸透 ホームの理念を、玄関の近くに大きく掲示し、利用者ご家族等、来訪者にもわかりやすく、目に付くようにしている。		運営推進会議にて、参加者に理念を説明して、理解をいただけるように努めている。
2. 地域との支えあい			
4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所とのつきあい 近隣住民の方と顔を合わせた際は、利用者や散歩の時はもとより職員だけの時も、必ず明るく挨拶をしている。他にも、回覧板を届ける際に利用者とともに伺ったり、庭の手入れや野菜作りに参加させていただいたりしている。時には利用者がお茶に招かれ、世間話をしたりと、良いお付き合いをさせていただいている。		
5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域とのつきあい 地域の幼稚園、小学校、中学校との交流を持ち、ホームへ訪問していただいている。町内会の会長さんがボランティアとして、毎年日本舞踊を披露してくださっているが、町内会自体はほとんど活動をされていない状態であり、町内行事も企画されていない。		
6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	事業者の力を活かした地域貢献 地域に暮らされている、高齢で独り暮らしの方のお宅を利用者が定期的に訪問し、世間話をしたり、庭の手入れや野菜作りに参加させていただき、感謝の言葉をいただいている。管理者も、利用者や付き合っくださっていることのお礼に伺い、高齢者の方の思いや、不安を聞き、出来る範囲で協力することを伝えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を、ユニットのリーダーを中心に職員全員で行うことで、サービスの向上に努めている。外部評価の結果は、ミーティングの際に報告し、結果について意見交換して、さらなる改善につながるよう努力している。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ホームの運営状況や、利用者の日々の暮らし、行事やレクリエーションでのご様子などを報告し、サービスの実情や理念などをご理解いただけるように努力している。参加者より質問や意見、要望を聞き、改善に向けて職員のミーティングでもよく話し合い、サービスの質の向上に努めている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域ケア会議に参加したり、市が行う研修にも積極的に参加し、得た情報は職員間で共有し、サービス向上に努めている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	左記の制度について、まだ理解が十分でない。		今後、制度についての勉強会に積極的に参加し、制度について理解出来るよう、職員全員が取組んでいきたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所として身体拘束は一切行っており、虐待の防止についても職員ひとりひとりが意識を持って取り組んでいる。職員の介護方法、声かけが、無意識のうちに利用者を傷つけていないか、職員間で確認し合うように努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には契約書、重要事項説明書について、内容の十分な説明をするだけでなく、事業所のケアに対する理念や、日々の取り組みについてもよく説明し、利用者がホームで暮らしていく事へのご家族の不安を少しでも解消出来るように配慮をしている。将来の体調の変化や、重度化された場合についても、事業所としてどのように対応していくかを必ず相談し、理解をいただくようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の言葉や態度から、思いを察する努力をし、利用者の思いを大切にする運営を心がけている。利用者からの不安の訴えや、意見、要望は、特定の職員の中で埋もれてしまわないよう、その都度の引継ぎ、管理者への報告や、ミーティングなど、職員全体で共有できるような体制作りをしている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	利用者の日々の暮らしぶりについては、ご家族がホームに来訪された際に伝えている他、ケアプランに基づいた支援経過報告書を作成し、毎月ご家族に送付している。毎月の金銭出納帳も作成して同封しており、預り金について適正な管理が行われているか確認出来るようにしている。体調の変化により受診する際には、事前事後に電話にてご家族に報告、相談している。		日々の生活のご様子、行事やレクリエーションの際の写真を撮影し、年に数回、それぞれご家族に送付している。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族には、来訪時に、気になったことを何でも伝えていただけるような、ホームの雰囲気作りに努めている。意見、要望があればユニットで情報を共有し、よく話し合い、速やかに対応して、結果をご家族に報告している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は、毎朝、各ユニットの職員から報告を受け、利用者がよりよく過ごすことが出来るよう意見交換をしており、毎月のミーティングにおいても意見を積極的に聞き、運営に反映して、サービスの質の向上に努めている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	様々な状況に対応できるよう、勤務体制を整えている。管理者はシフトに入らず、利用者の体調の変化に応じ、夜間も含めて速やかな対応が出来る体制にしている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員と利用者の信頼関係を大切に考えており、馴染みの職員が長期間に渡って勤められるよう、各職員の勤務条件についての希望にも出来る限り応えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修会、講習会に参加する機会が確保出来るよう、研修開催の通知があった際には、職員全員に参加を募り、希望者が研修に参加できるように、勤務を交代する等、調整している。</p>	<p>研修に参加した職員は、参加出来なかった職員に、ミーティング等の機会に研修の内容を報告し、全職員で情報を共有出来るようにしている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>職員の相互訪問や、利用者を含めた他グループホームとの交流の実績はあるが、頻度は少なく、定期的に行うには至っていない。</p>	<p>今後、活発な同業者との交流や、ネットワーク作りが出来るように努力していきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>日常的な関わりの中で、悩みや、不安を何でも話してくれるような雰囲気、関係を作り、ストレスを少しでも解消出来るように努めている。職員専用の休憩室を設け、休憩時間をゆったりと過ごすことが出来るように配慮している。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>法人代表が管理者を兼ねており、毎日、現場にて職員や利用者と接する中で、それぞれの勤務状況を把握している。職員の積極的な研修参加や、資格取得をサポートする体制作りを行っている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ホームへの見学や、入居相談に来られた際に、ご本人の状況をよく聞き、把握に努めている。利用開始前に必ず、管理者がご本人に面会し、直接お話を伺う機会を設けている。生活歴や、趣味、習慣、人柄や生活リズム等、得た情報について、職員と共有しケアの参考にしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ホームへの見学や、入居相談に来られた際に、今までのご家族の苦労や悩み、サービスを利用する上での不安等を聞き、相談に乗っている。サービスに対しての要望は、可能な限り実現出来るように努力しているが、困難な事については、ご家族に必ず報告して理解を求めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた際に、ご家族やご本人の求める暮らし方について、グループホームでの生活よりも、より適切なサービスがあると感じた時は、助言している。その際、市の介護福祉課や、包括支援センターへの相談も勧めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	事前に見学が可能な状況なら、ホームの見学を勧めている。ご本人が納得の上でホームで過ごされる事は実際は多くないので、少しでも安心して過ごしていただけるよう、利用開始後しばらくはご家族の面会を多くしてもらおう等、最大限の配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者の思いに添いながら、季節に応じた、畑作り、山菜採り、栗拾い、除雪などや、日常の家事活動を一緒に行う事で、支えあう関係作りに努めている。昔ながらの料理を作る際に、利用者に調理法を教えていただくなど、職員が利用者を頼ることも大切ととらえている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族が来訪された際に、利用者のホームでの暮らしぶりや、職員の対応について報告を行い、より良いサービスを提供出来るように意見や要望を伺っている。職員や利用者と共にご家族も参加出来る、駐車場でのバーベキューを毎年夏季に行っている他、相互の親睦を深め、共に支える関係作りに努めている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族の現在の状況、ご本人とご家族の今までの関係等を考慮した上で、より良い関係を築く事が出来るように配慮している。お互いに直接話す事が出来ないような場合も、職員を通して、伝えるようにしている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	月に一度の教会へのお参りや、知人との手紙のやりとり等、ご本人の馴染みの関係が継続していくように、先方の協力も得ながら支援している。また、散歩の途中に、馴染みの場所に立ち寄り、馴染みの方のお宅に伺ったりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日常生活の中で、利用者同士の関わり方を見守り、どのような関係が出来ているか、把握して職員全体で共有している。調理や食後の片付け等の日常活動や、レクリエーションを通して、利用者同士の良い関係作りのきっかけを、職員がさりげなく提供している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	長期の入院により退去された利用者には、管理者、馴染みの職員がお見舞いに伺っている。また、ご家族から、今後の事に対する思いを聞き、相談に乗っている。利用者の退所後にも、ホームの行事やレクリエーションの際に、何年も継続して協力をしてくださっているご家族もあり、良いお付き合いをさせていただいている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、会話の内容や表情から、希望や意向の把握に努めている。出来る限り、それぞれの希望に添った暮らしが実現出来るように、必要な道具、材料の用意や、環境の整備に努めている。		希望や意向の把握が困難な利用者もいるので、その人の気持ちになって考えてみることで、利用者本位のサービスが出来るように努めている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に、ご家族及びご本人から、生活歴や生活習慣などを伺い、それを書類にまとめて、全職員で情報を共有している。入居されてからも、以前の暮らしぶりを職員に話してくれることがあるので、よくお話を聞き、把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の暮らしぶりをモニタリングし、状態について常に最新の情報を得るように努力をしているほか、センター方式や、長谷川式を活用して、利用者それぞれの残存能力の把握に努め、出来る事で活躍していただく場面を作り、出来ない事に対してはさりげない支援を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日々の暮らしの中で、利用者それぞれの希望の把握と、状態の理解に努め、それをもとに、ご家族と意見交換をしている。ご家族や関係者からの意見や要望を真摯に受け止め、介護計画に反映している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月毎に介護計画を見直し、状態の変化に応じて変更、追加している。急変などによって、状態に大きな変化があれば、医療関係者とも連携しつつ、介護計画を新たに作成している。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録の記入のほか、利用者毎に担当の職員を決め、毎月、支援経過報告書を作成している。介護計画に基づいたケアの実践に対する結果や、気づきの情報の共有に役立っており、介護計画の見直しに活かされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご家族の希望に応じて、送迎を含めた受診介助を行っている。ほか、利用者ご本人、ご家族から要望があれば、都度検討して可能な限り実現に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の幼稚園、小学校、中学校からの施設訪問を受け入れているほか、外出の機会が減る冬季には、民謡、日本舞踊、お琴、和太鼓などのボランティアの協力を得て、ホームで鑑賞会を行っている。絵手紙教室をして下さるボランティアは、定期的に来ていただいている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用者やご家族の希望や、状態を見極めた上で必要があれば、他の事業者、医療機関、ケアマネージャーに相談し、対応出来る関係作りに努めている。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に出席していただき、お話をいただいている。		今後さらに、どのように協働していけるか、積極的に意見交換していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	利用者やご家族が希望する医療機関を、かかりつけ医としている。ご家族の希望に応じて、看護師を兼務する管理者が受診対応を行っており、医師や看護師から健康管理や処置に対して、助言を得ている。受診の結果について、職員間で情報を共有し、ご家族にも報告している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門ではないが、認知症に理解のある医師との関係を築いており、多くの利用者が受診している。必要に応じて依頼書を書いていただき、他の医療機関でも診断や、治療を受けられる体制となっている。		
45	看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	管理者が看護師を兼ねており、職員の中にも准看護師資格所持者が勤務している。日々の利用者の健康管理や、他職員やご家族からの相談を受ける等の業務にあっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が入院された際には、既往症、生活歴、服薬状況、ホームでの状況等をまとめた介護添書を作成して、速やかに入院先医療機関に提出している。また、管理者、馴染みの職員が定期的にお見舞いに伺っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化の場合や、終末期のあり方については、ご家族や利用者の希望を聞きながら、かかりつけ医ともよく相談した上で、グループホームとして出来る限界をご家族に伝え、理解を得るように努めている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	グループホームで提供出来るサービスの限界を見極め、ご家族に伝えるとともに、限界までどのように支えていけるか、かかりつけ医に相談し協力を得ながら、利用者ご本人にとって最良の、終末期の過ごし方を考え、職員全体で取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>転居の際には、ホームでの生活状況等必要な情報を、転居先関係機関に提供し、利用者へのダメージが最小限となるよう配慮している。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者のプライドやプライバシーを侵害する、声かけや対応のないように、ミーティングで話し合っている。記録書類の扱いについても、同様に配慮している。個人情報に対する高い意識を持ち、守秘義務の徹底を図っている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者が自由に主張、意思決定、選択が出来るような、声かけや雰囲気作りに努めている。言葉で主張することが困難な利用者については、態度や表情から、思いを受け止めている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的な1日の流れはあるが、ひとりひとりの体調や気分に配慮し、それぞれが能力に応じて日常活動(家事)に参加したり、思いに添って生活出来るよう、支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>起床時、寝間着より着替える時は、利用者自身が着る服を決められるよう支援している。入浴時に更衣される時も、利用者の希望を聞きながら、一緒に用意するようにしている。理容や美容については、利用者が行きたい店を希望されることは現在ほとんどないが、髪型については、ご本人から店の人に希望を伝えていただいている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事の献立は、予めある程度決めていたが、利用者の希望に応じて、柔軟に変更している。また、利用者から調理法を教えていただいたり、下ごしらえ、味付け、盛り付けに参加していただいたりしている。後片付けも利用者を中心に行い、職員は見守りしている。</p>		<p>季節に配慮した献立作りを心がけている。ふきの煮物や、芋団子等、利用者が中心になって作るメニューも取り入れている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者が希望する菓子、飲み物等、体調や状態に配慮しながら提供している。職員と買い物に出かけて、自身で好みの物を選び購入して、楽しんでいる利用者もいる。タバコは、希望される利用者がいないため提供していない。お酒については、ご家族から飲酒を止められている利用者もいるため、ホームとして提供しない方針である。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導し、出来るだけトイレで排泄する習慣を持っていただけるよう支援することで、パットやリハパンの使用を最低限にしている。また、汚れたパットやリハパンを長時間付けていることのないよう、トイレ誘導時に、さりげなく確認し交換している。		トイレ誘導の際に、利用者のプライドを傷つけないよう、声かけ等には十分な配慮をしている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	1日の中で、ある程度の時間帯を決めて入浴を行っているが、利用者の習慣や体調、希望に合わせて、柔軟に対応している。		入浴を拒否される利用者には、声かけの工夫や、他の職員に対応を代わってもらう等、臨機応変に対応している。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	それぞれの生活習慣に合わせて、自由に起床、就寝していただいている。昼夜逆転を防止するため、日中に活動する機会(散歩、家事活動、レク等)を多く設け、夜間に良眠出来るように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者それぞれに活躍の場面を持てるように職員が働きかけ、笑顔で感謝の言葉がけを行っていくことで、喜びと自信を持って日々を過ごしていただけるように支援している。		活発な利用者が率先して活動されることで、ゆったりした利用者の活動の機会が失われないよう、注意して対応している。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の所持を希望される利用者については、ご家族と相談の上、少額持たせている。買い物を希望される時は、職員が同行して出かけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	身体を動かし外気にふれる機会を持つため、その日の天候や体調をみながら、希望のある利用者のもとより、そうでない方も積極的に散歩に誘っている。冬季については路面状況の悪さや寒さのため、細心の注意を図っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	温泉への日帰り入浴や、花見、景勝地見物や山菜採り等、季節に合わせて積極的に外出している。また、外食、お墓参り等の希望があれば、ご家族にも相談し、一緒に出かけていただいている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や、手紙のやり取りを希望される場合には、出来るだけ先方と相談し、先方の意向も確認してから支援するように心がけている。基本的には利用者自身が対応出来るようにしているが、状況や希望により、職員が間に入って対応することもある。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族や知人の方と職員の間信頼関係を築き、気軽に訪問していただけるような雰囲気作りに努めている。また、いつでも気兼ねなく訪問していただけるように、面会時間等は設けていない。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束のないケアを実践している。行っている行為が身体拘束にあたらないかを常に考え、話し合うように努めている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、外出希望がある際は、安全性に配慮し、個別に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中はホールに必ず職員がおり、利用者とともに過ごしなが、それぞれの所在を確認、体調や気分等の把握に努めている。夜間には職員が定期的に巡回、利用者の状態を確認している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	火器等、明らかに危険と思われる物については、施錠、管理できる安全な場所に移し、必要に応じて出している。調理器具(包丁等)は利用者も使用するので、手に届く場所に置いているが、使用后必ず戻っているか、毎日確認をしている。		利用者毎の状態に合わせて危険を予測し、最低限の管理を心がけている。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	利用者それぞれの症状、体調、精神状態を理解し、起こりうる事故を予測し未然に防止出来るよう努めている。それでも起きてしまった事故について、事故報告書を作成し、事例について話し合い、原因を究明して再発防止に取り組んでいる。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時対応マニュアルを用意し、急変の対応に備えているほか、異常に気付いた時は、速やかに看護師を兼ねる管理者に報告し、指示を受ける体制となっている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災等の緊急時対応マニュアルを作成し、年1回、消防署員立会いのもと利用者とともに避難訓練を実施している。実際の緊急避難時には、一時的に利用者を住宅に収容していただけるよう近隣住民にお願いし、了承を得ている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	出来る限り、利用者の希望に添って生活していただくことを基本としており、それによって生じるリスクをご家族に対し説明し理解を得るようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>いつもと違う様子があれば、バイタルチェックを行い管理者に報告、異常があれば速やかに受診対応をしている。状態と経過を生活記録に記入し、必要な処置や観察点など、申し送りで情報を共有することで、職員が交代してもスムーズに対応出来るようにしている。</p>	<p>顔色や機嫌、食事や水分の摂取量、排泄状況等の変化に注意し、兆候を見逃がさないようにしている。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬内容をファイルにして職員が確認しやすい場所に保管しており、内容について速やかに把握、確認出来るようにしている。服薬時には利用者一人ひとり、間違いなく服薬したことを確認している。服薬内容について変更がある時は、申し送りにて情報を共有している。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>散歩や家事活動で身体を動かす機会を設け、自力排便出来るように支援している。また、繊維質を多く摂れる献立を取り入れたり、起床後に冷たい水を飲んでいただく等の工夫も行っている。必要に応じて水分摂取量のチェック、排便確認を行い、どうしても便秘傾向になる利用者には、医師より下剤の処方を受け、状態に合わせて服薬していただいている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、義歯の洗浄を行い、週1回のペースで、義歯洗浄剤を使用して殺菌をしている。職員は口腔ケアの重要性を理解し、研修に参加して学習している。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事摂取量については、全員についてチェックし、記録表に記入している。日頃の生活の中で、水分摂取が十分でない利用者については、水分摂取量チェックを行い、必要量に足りない場合には、水分摂取を促している。また、発熱等、体調に変化がある利用者についても、水分摂取量チェックを行っている。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症については、対策マニュアルを配布して職員に周知の上、具体的な対策を決めて実施し予防に努めている。手洗いは日常的に徹底されており、拭き取りはペーパータオルを使用している。毎年、インフルエンザ予防接種を利用者、職員ともに受けており、ノロウイルス対策としては、トイレ、ドアノブ、手すり、床など、塩素系漂白剤の希釈液を使用して消毒を行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所や調理器具の清潔、衛生には日頃から十分な配慮をしている。まな板、ふきん、三角コーナー等は、塩素系漂白剤を使用して消毒を行っている。食材の管理についても徹底し、古くなる前に調理するように努めている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関には、ホームでの生活の様子の写真を貼ったり、季節に応じた簡単な装飾をして、親しみやすく明るい雰囲気作りに努めている。また、利用者が安全に靴の履き替えが出来るように、通行に邪魔にならない大きさの腰掛けを用意している。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>生活感を出すために人形やぬいぐるみを飾ったり、季節に応じた装飾を行っており、他にも、利用者の作品を飾ったり、レクリエーションの際の写真を掲示している。ホールからはホームの畑が見え、季節の移ろいを感じることが出来る。音や光、室温など生活環境にも配慮し、問題があれば速やかに対処、改善している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ダイニングチェアの他にも椅子やテーブルを設置し、利用者がそれぞれ好きな場所で過ごすことが出来るよう配慮している。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>自宅で使用していた、使い慣れた馴染みの家具や、ご家族の写真等を用意していただき安全に配慮しながら、自由に配置していただいている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>室温、換気に配慮し、こまめに温度調節している。冬季は特に暖房で暑くなりすぎないように、温度湿度計を確認して管理している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>テーブルや椅子等、家具につまづいて転倒されることのないよう、利用者の動線を意識して、配置場所に注意している。上下の階への行き来はエレベーターを使用していただき、安全に移動出来るようにしている。トイレ等も、出来る限り自力でしていただけるよう、手すりの位置に配慮している。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>混乱や失敗を未然に防ぐことが出来るよう、環境整備や見守りを徹底しながら、職員は最低限の支援のみを行い、利用者が主体的に役割を持って生活出来るよう活躍する場面作りをしている。</p>	<p>利用者毎のADL、認知症の状態等から、混乱や失敗が起きないよう状態の把握に努め、ミーティングや申し送りで職員間で情報を共有している。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>ホームの裏に畑を設け、利用者が主体となって野菜作りをしており、職員がサポートをしている。収穫した野菜は食事やおやつでいただくことで、季節を感じていただいている。また、夏季はベンチも置いており、散歩等で外出された際に外でのんびり休憩するスペースとなっている。</p>	

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2 / 3くらいが 職員の1 / 3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2 / 3くらいが 利用者の1 / 3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2 / 3くらいが 家族等の1 / 3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

私達は、利用者の主体性を尊重し、それぞれが役割や活躍の場面を持って過ごすことが出来るよう支援しています。日常的な家事活動、畑作りや山菜採り、ふきの塩漬け作り、秋には漬物作り、冬は雪かき等、利用者が中心に動き、職員は、利用者が出来ない部分を補っています。そして、職員から利用者へ『ありがとうございます、とても助かっています』と感謝とねぎらいの言葉を伝えることで、自信と、生きがいのある暮らしの実現につながるよう努めています。

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム水色の詩 ユニット	評価実施年月日	平成20年1月14日
評価実施構成員氏名	工藤 羽根石 且股 今泉 橋本 野田 児玉 中山 小野寺		
記録者氏名	小野寺 敬子	記録年月日	平成20年1月21日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	生活の中で、利用者それぞれに出来る喜び、楽しみをみつけていただけるようなサービス提供を理念としている。冬季は、通りに除雪に出ることで近隣の住民の方と顔を合わせる機会を作ったり、夏季は近隣の高齢者宅の庭の草取りをさせていただく等、地域社会とのつながりを持つことが出来るように支援している。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念の実践に向けて、ユニット毎にミーティングで話し合っ理解を深めており、理念に添った利用者との接し方や、声かけを実践している。また、利用者が主体となって参加し楽しんでいただけるような行事(ふき採り、餅つき、畑作りなど)を企画、実行している。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ホームの理念を、玄関の近くに大きく掲示し、利用者ご家族等、来訪者にもわかりやすく、目に付くようにしている。		運営推進会議にて、参加者に理念を説明して、理解をいただけるように努めている。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣住民の方と顔を合わせた際は、利用者散歩の時はもとより、職員だけの時も必ず明るく挨拶をしている。他にも、回覧板を届ける際に、利用者とともに伺ったり、庭の手入れや野菜作りに参加させていただいたりしている。時には利用者がお茶に招かれ、世間話をして来たりと、良いお付き合いをさせていただいている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の幼稚園、小学校、中学校との交流を持ち、ホームへ訪問していただいている。町内会の会長さんがボランティアとして、毎年日本舞踊を披露してくださっているが、町内会自体はほとんど活動をされていない状態であり、町内行事も企画されていない。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域に暮らしている、高齢で独り暮らしの方のお宅を利用者が定期的に訪問し世間話をしたり、庭の手入れや野菜作りに参加させていただき、感謝の言葉をいただいている。管理者も、利用者と一緒に過ごしていることのお礼にうかがい、高齢者の方の思いや、不安を聞き、出来る範囲で協力をすることを伝えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価をユニットのリーダーを中心に職員全員で行うことで、サービスの向上に努めている。外部評価の結果は、ミーティングの際に報告し、結果について意見交換して、さらなる改善につながるように努力している。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ホームの運営状況や、利用者の日々の暮らし、行事やレクリエーションでのご様子などを報告し、サービスの実情や理念などをご理解いただけるように努力している。参加者より質問や意見、要望を聞き、改善に向けて職員のミーティングでもよく話し合い、サービスの質の向上に努めている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域ケア会議に参加したり、市が行う研修にも積極的に参加し、得た情報は職員間で共有し、サービス向上に努めている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	左記の制度について、まだ理解が十分でない。		今後、制度についての勉強会に積極的に参加し、制度について理解出来るよう、職員全員が取組んでいきたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所として身体拘束は一切行っており、虐待の防止についても職員ひとりひとりが意識を持って取り組んでいる。職員の介護方法、声かけが、無意識のうちに利用者を傷つけていないか、職員間で確認し合うように努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には契約書、重要事項説明書について、内容の十分な説明をするだけでなく、事業所のケアに対する理念や、日々の取り組みについてもよく説明し、利用者がホームで暮らしていく事へのご家族の不安を少しでも解消出来るように配慮をしている。将来の体調の変化や、重度化された場合についても、事業所としてどのように対応していくかを必ず相談し、理解をいただくようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の言葉や態度から、思いを察する努力をし、利用者の思いを大切にする運営を心がけている。利用者からの不安の訴えや、意見、要望は、特定の職員の中で埋もれてしまわないよう、その都度の引継ぎ、管理者への報告や、ミーティングなど、職員全体で共有できるような体制作りをしている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	利用者の日々の暮らしぶりについては、ご家族がホームに来訪された際に伝えている他、ケアプランに基づいた支援経過報告書を作成し、毎月ご家族に送付している。毎月の金銭出納帳も作成して同封しており、預り金について適正な管理が行われているか確認出来るようにしている。体調の変化により受診する際には、事前事後に電話にてご家族に報告、相談している。		日々の生活のご様子、行事やレクリエーションの際の写真を撮影し、年に数回、それぞれご家族に送付している。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族には、来訪時に、気になったことを何でも伝えていただけるような、ホームの雰囲気作りに努めている。意見、要望があればユニットで情報を共有し、よく話し合い、速やかに対応して、結果をご家族に報告している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は、毎朝、各ユニットの職員から報告を受け、利用者がよりよく過ごすことが出来るよう意見交換をしており、毎月のミーティングにおいても意見を積極的に聞き、運営に反映して、サービスの質の向上に努めている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	様々な状況に対応できるよう、勤務体制を整えている。管理者はシフトに入らず、利用者の体調の変化に応じ、夜間も含めて速やかな対応が出来る体制にしている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員と利用者の信頼関係を大切に考えており、馴染みの職員が長期間に渡って勤められるよう、各職員の勤務条件についての希望にも出来る限り応えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修会、講習会に参加する機会が確保出来るよう、研修開催の通知があった際には、職員全員に参加を募り、希望者が研修に参加できるように、勤務を交代する等、調整している。</p>	<p>研修に参加した職員は、参加出来なかった職員に、ミーティング等の機会に研修の内容を報告し、全職員で情報を共有出来るようにしている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>職員の相互訪問や、利用者を含めた他グループホームとの交流の実績はあるが、頻度は少なく、定期的に行うには至っていない。</p>	<p>今後、活発な同業者との交流や、ネットワーク作りが出来るように努力していきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>日常的な関わりの中で、悩みや、不安を何でも話してくれるような雰囲気、関係を作り、ストレスを少しでも解消出来るように努めている。職員専用の休憩室を設け、休憩時間をゆったりと過ごすことが出来るように配慮している。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>法人代表が管理者を兼ねており、毎日、現場にて職員や利用者と接する中で、それぞれの勤務状況を把握している。職員の積極的な研修参加や、資格取得をサポートする体制作りを行っている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ホームへの見学や、入居相談に来られた際に、ご本人の状況をよく聞き、把握に努めている。利用開始前に必ず、管理者がご本人に面会し、直接お話を伺う機会を設けている。生活歴や、趣味、習慣、人柄や生活リズム等、得た情報について、職員と共有しケアの参考にしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ホームへの見学や、入居相談に来られた際に、今までのご家族の苦労や悩み、サービスを利用する上での不安等を聞き、相談に乗っている。サービスに対しての要望は、可能な限り実現出来るように努力しているが、困難な事については、ご家族に必ず報告して理解を求めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた際に、ご家族やご本人の求める暮らし方について、グループホームでの生活よりも、より適切なサービスがあると感じた時は、助言している。その際、市の介護福祉課や、包括支援センターへの相談も勧めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	事前に見学が可能な状況なら、ホームの見学を勧めている。ご本人が納得の上でホームで過ごされる事は実際は多くないので、少しでも安心して過ごしていただけるよう、利用開始後しばらくはご家族の面会を多くしてもらおう等、最大限の配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者の思いに添いながら、季節に応じた、畑作り、山菜採り、栗拾い、除雪などや、日常の家事活動を一緒に行う事で、支えあう関係作りに努めている。昔ながらの料理を作る際に、利用者に調理法を教えていただくなど、職員が利用者を頼ることも大切ととらえている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族が来訪された際に、利用者のホームでの暮らしぶりや、職員の対応について報告を行い、より良いサービスを提供出来るように意見や要望を伺っている。職員や利用者と共にご家族も参加出来る、駐車場でバーベキューを毎年夏季に行っている他、相互の親睦を深め、共に支える関係作りに努めている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族の現在の状況、ご本人とご家族の今までの関係等を考慮した上で、一緒に外出していただいたり、ホームの行事に参加していただくことで、より良い関係を築く事が出来るように支援している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に来訪していただけるよう、明るい雰囲気作りに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日常生活の中で、利用者同士の関わり方を見守り、どのような関係が出来ているか、把握して職員全体で共有している。調理や食後の片付け等の日常活動や、レクリエーションを通して、利用者同士の良い関係作りのきっかけを、職員がさりげなく提供している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	長期の入院により退去された利用者には、管理者、馴染みの職員がお見舞いに伺っている。また、ご家族から、今後の事に対する思いを聞き、相談に乗っている。利用者の退所後にも、ホームの行事やレクリエーションの際に、何年も継続して協力をしてくださっているご家族もあり、良いお付き合いをさせていただいている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、会話の内容や表情から、希望や意向の把握に努めている。出来る限り、それぞれの希望に添った暮らしが実現出来るように、必要な道具、材料の用意や、環境の整備に努めている。		希望や意向の把握が困難な利用者もいるので、その人の気持ちになって考えてみることで、利用者本位のサービスが出来るように努めている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に、ご家族及びご本人から、生活歴や生活習慣などを伺い、それを書類にまとめて、全職員で情報を共有している。入居されてからも、以前の暮らしぶりを職員に話してくれることがあるので、よくお話を聞き、把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の暮らしぶりをモニタリングし、状態について常に最新の情報を得るように努力をしているほか、センター方式や、長谷川式を活用して、利用者それぞれの残存能力の把握に努め、出来る事で活躍していただく場面を作り、出来ない事に対してはさりげない支援を心がけている。		
2. ご本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日々の暮らしの中で、利用者それぞれの希望の把握と、状態の理解に努め、それをもとに、ご家族と意見交換をしている。ご家族や関係者からの意見や要望を真摯に受け止め、介護計画に反映している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月毎に介護計画を見直し、状態の変化に応じて変更、追加している。急変などによって、状態に大きな変化があれば、医療関係者とも連携しつつ、介護計画を新たに作成している。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録の記入のほか、利用者毎に担当の職員を決め、毎月、支援経過報告書を作成している。介護計画に基づいたケアの実践に対する結果や、気づきの情報の共有に役立っており、介護計画の見直しに活かされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご家族の希望に応じて、送迎を含めた受診介助を行っている。ほか、利用者ご本人、ご家族から要望があれば、都度検討して可能な限り実現に努めている。		
4. ご本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の幼稚園、小学校、中学校からの施設訪問を受け入れているほか、外出の機会が減る冬季には、民謡、日本舞踊、お琴、和太鼓などのボランティアの協力を得て、ホームで鑑賞会を行っている。絵手紙教室をして下さるボランティアは、定期的に来ていただいている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用者やご家族の希望や、状態を見極めた上で必要があれば、他の事業者、医療機関、ケアマネージャーに相談し、対応出来る関係作りに努めている。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に出席していただき、お話をいただいている。		今後さらに、どのように協働していけるか、積極的に意見交換していきたい。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>利用者やご家族が希望する医療機関を、かかりつけ医としている。ご家族の希望に応じて、看護師を兼務する管理者が受診対応を行っており、医師や看護師から健康管理や処置に対して、助言を得ている。受診の結果について、職員間で情報を共有し、ご家族にも報告している。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>専門ではないが、認知症に理解のある医師との関係を築いており、多くの利用者が受診している。必要に応じて依頼書を書いていただき、他の医療機関でも診断や、治療を受けられる体制となっている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>管理者が看護師を兼ねており、日々の利用者の健康管理や、他職員やご家族からの相談を受ける等の業務にあたっている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>利用者が入院された際には、既往症、生活歴、服薬状況、ホームでの状況等をまとめた介護添書を作成して、速やかに入院先医療機関に提出している。また、管理者、馴染みの職員が定期的にお見舞いに伺っている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化の場合や、終末期のあり方については、ご家族や利用者の希望を聞きながら、かかりつけ医ともよく相談した上で、グループホームとして出来る限界をご家族に伝え、理解を得るように努めている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>グループホームで提供出来るサービスの限界を見極め、ご家族に伝えるとともに、限界までどのように支えていけるか、かかりつけ医に相談し協力を得ながら、利用者ご本人にとって最良の、終末期の過ごし方を考え、職員全体で取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	転居の際には、ホームでの生活状況等必要な情報を、転居先関係機関に提供し、利用者へのダメージが最小限となるよう配慮している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	利用者のプライドやプライバシーを侵害する、声かけや対応のないように、ミーティングで話し合っている。記録書類の扱いについても、同様に配慮している。個人情報に対する高い意識を持ち、守秘義務の徹底を図っている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者が自由に主張、意思決定、選択が出来るような、声かけや雰囲気作りに努めている。言葉で主張することが困難な利用者については、態度や表情から、思いを受け止めている。		
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な1日の流れはあるが、ひとりひとりの体調や気分に応じ、それぞれが能力に応じて日常活動(家事)に参加したり、思いに添って生活出来るよう、支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	着用する衣類は、基本的にご本人に決めていただいているが、決めかねて悩んでいる時はさりげなく声かけをしている。また、定期的に理容、美容院に行っていたり、髪形についてはご本人に決めていただいている。		
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者に食事の好みを聞き、献立に取り入れている。また、利用者に合わせて調理の下ごしらえや、盛り付け、配膳、片付けを一緒に行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者それぞれの嗜好を理解し、出来るだけ好みに合うように調理、提供している。また、体調に合わせて、お粥やきざみ食等、摂取しやすいように配慮している。タバコについては、ホームの安全管理のため、喫煙場所を決めている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を作成して、排泄パターンや習慣を把握し、トイレで排泄出来るよう支援している。時間を把握して声かけすることで、トイレで排泄していただけることが多い。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ある程度時間帯を決めているが、希望する日に入浴していただいている。入浴拒否のある利用者には声かけや対応の工夫をし、成功した情報を職員全員で共有している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中、身体を動かす機会を多くし、夜間良眠していただけるよう支援している。寝付られない時にはゆっくりお話を聞いたり、暖かい飲み物等でリラックスしていただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	その方の性格や、生活習慣に合った役割を持っていただき、感謝の言葉をかけることで、喜びと楽しみをもって過ごすことが出来るよう支援している。		裁縫の得意な方には布巾作り、料理の好きな方には野菜のきざみや味付け、キレイ好きな方には清掃等を、職員と一緒にやっている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	可能な方には、ご家族の協力を得て少額持っていただいている。また、衣類等の買い物にはご本人に同行していただき、好きなものを選んでいただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日には、希望と体調に合わせて散歩やドライブ等に出かけていただいている。畑作りや収穫、花を摘んだり、季節を感じていただいている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	春から秋にかけて、月に1回くらいのペースで、近郊へ花見、温泉への日帰り等を行っている。日常の会話から利用者の行きたい場所を把握し、出来る限り希望の場所に行けるように努めている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望があれば、いつでも電話をかけたり手紙を出す支援をしている。時には代筆を頼まれることもある。また、電話で話している内容が周囲に聞こえないように設置場所に配慮し、手紙の内容も周囲に知られないように配慮している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつも笑顔を心がけ、気軽にいつでも訪問していただけるよう努めている。また、ご本人だけでなく、他利用者にも気軽に声をかけていただけるような雰囲気作りに努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティングや、申し送り時に日常のケアを振り返り、身体拘束にあたる行為をしていないか考え、職員全員で、身体拘束のないケアの工夫に取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	立地条件上、安全を配慮し、外出したい時にはいつでも出来るように対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>利用者と同じ空間で過ごしており、全員の所在確認や状況の把握に努めている。夜間には、定期的に巡回し状態の確認を行っている。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>状態に応じて、保管、管理している。危険な物品を使用される時は見守り、安全確認を行っている。過剰な管理は行っていない。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>身体と精神の状態を知ることで、事故を予測し防止につなげている。事故が起きてしまった場合は事故報告書を作成し、事例に基づいて防止策を検討し全員で共有している。</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>緊急時対応マニュアルを作成し、急変や事故発生に備えている。夜間についても迅速な対応がとれるよう、連絡体制を整えている。</p>		
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>毎年、地域の消防署の協力を得て消防署員立会いのもと、避難訓練を行っている。また、近隣の方にも協力が得られるよう働きかけ、承諾を得ている。</p>		
72	<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>起こりうるリスクに関しては、あらかじめご家族に説明し、理解をいただいている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>小さな変化も見逃さず、早期発見に努め、変化があれば管理者に報告して指示を仰ぎ、速やかに対応している。</p>	<p>バイタルチェック、顔色、意識の変化を見落とさないよう、常に注意をはらっている。また、状態を記録し後の受診対応につなげている。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>職員全員が処方薬の確認をし、把握するように努めている。確実に服薬出来ているかについても確認している。薬の変更時は、申し送りや処方箋ファイルで情報を共有している。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>繊維質の多い食材や乳製品を献立に取り入れるように努めている。また、散歩や家事活動で身体を動かす機会を作り、自然排便出来るように支援している。排泄確認表で毎日チェックし、便秘時は下剤を服用していただいている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、歯みがき、うがいの声かけをし、見守りまたは介助している。義歯の洗浄も毎食後に行い、週1回は義歯洗浄剤にて洗浄、消毒している。</p>	<p>口腔内の異常を見落とさないよう、口腔ケア時に確認させていただいている。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事、水分摂取量を毎食時チェックし、記録している。また、自宅で生活していた時の食事量や食事習慣をご家族にうかがい、体調に合わせて支援している。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>インフルエンザの予防接種は、利用者、職員ともに毎年受けている。ノロウイルス対策としては、塩素系漂白剤の100倍希釈液で、ドアノブ、手すり、床、トイレ等の水拭きを行っている。また、外出より戻られた際は、手洗い、うがいをしていただき感染症予防に努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>まな板、布巾等は毎日、塩素系漂白剤で消毒している。冷蔵庫の清掃を毎日行い、食材は適切に管理し、使い切る工夫をしている。食材の買出しは週3回とし、常に新鮮なものを使用している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関には腰掛けを置き、座って靴の履き替えが出来るように配慮している。ホーム入り口付近には、花畑やベンチ等を配置しており安らげる雰囲気作りをしている。</p>		<p>近隣の方にも、ベンチスペースを利用していただき、地域との関わりを深めていきたい。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用の空間は、太陽の光を多く取り入れるよう心がけ、室温、湿度も過ごしやすい状態になるように配慮している。花の咲く頃は、季節の花を花瓶に挿し、皆で楽しんでいる。</p>		<p>壁面には、季節に応じたものを利用者と手作りして飾り、季節を感じていただけるよう工夫している。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>廊下に椅子やテーブルを置き、写真や花等で飾り、少しでもゆったりと過ごしていただける環境作りを心がけている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>使い慣れた家具や食器を使っていただき、テレビ、ラジオ等も自由に配置していただいている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>排気、吸気設備が整っており、気温の変化により温度、湿度等も適切に保つよう配慮している。各居室の室温等は、利用者の状態や希望に応じて設定している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)ご本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2 / 3くらいが 職員の1 / 3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2 / 3くらいが 利用者の1 / 3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2 / 3くらいが 家族等の1 / 3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

ホーム内に閉じこもることなく、地域社会の人達とふれあえる時間を出来るだけ多く持てるように、春から秋にかけて月に1回は近郊にお弁当を持って車で出かけ、景色を楽しみ、喜んでいただいています。  
冬季には、ボランティアによる民謡、和太鼓、日本舞踊等を月に1回のペースで来ていただき鑑賞しています。  
職員と利用者、家族との信頼関係を第一に考え、ゆっくりと接し、手を取り合っ、笑顔で毎日を送っていただけるよう職員全員が同じ想いを共有し、実践しています。